

云つてよい。従つてその反響は当地方は勿論、即夜其の状況が大分並に福岡放送局から放送され、翌日は全国放送され、文中央地方の新聞も悉く之を報じた。

講演 次方

1. 社会科教育と地方史 中野 幡 能
2. 大分川流域の地理 兼子 俊 一
3. 阿南郷の今昔 渡 辺 澄 夫
4. 庄内郷の百姓一揆 別府大学講師 久多羅木儀一郎
5. 歴史教育に就て 文学博士 清原 貞 雄
6. 庄内町の古文書に就て 九大教授 竹 内 理 三
7. 庄内郷の古社寺に就て 立川 輝 信

本号より三十年代分です。会費(三百円)未納の方はすぐ入金して下さい。

府内に寛佐を訪ねた宗因の句

享保十九年に刊行された「三籙集」の中に西山宗因が九州旅行の時の句作が沢山採録してある。その中に「豊後寛佐庵を尋ねし時」と題して玉ほこのたよりになすな山桜の句が出ています。

宗因は、後に府内円寿寺才十四世の法燈を継いで、寺内東井坊に住んだ寛佐法印が、在京修学の頃、共に里村昌琢に師事したが、後年、花の本昌通と共に府内に来て、寛佐に源氏物語の伝授を受けたことがある。或はその時の作か。はた又、其後再遊しての句か。

五岳上人の狂歌

(立川)

明治三年有馬純雄氏が弾正台大巡察使として日田に行つた際、広瀬家を宿舎としていたが、その広瀬の二階に登る処の壁に、五岳上人の狂歌が貼り付けて有つた。それは

我が好きは書画骨董角力に基

酒と女はいふまでもなし。

我が嫌ひ、天保コ梨にごせ焼酎

裏打ち唐紙比丘尼しほから

と云うのだった。

(立川)

編輯後記

会員各位の御援助により三号雑誌に終らず、ここに二年を迎え、通巻才五号を見ること出来ましたのは御同慶に堪えません。折角戴いた土井寛申、松岡実両氏の玉稿は既に本号が予定の頁を超過している上に、印刷に送つた後でしたので遺憾ながら次号に廻はしました。御投稿は早くして頂く様重ねて御願ひ致します。

予定した寄附金が出来ぬことになり、運営上いささか困つています。会員各位一段の御協力により多数会員の獲得を願つてこの隘路を突破したいと存じます。(立川)

昭和三〇年 八月廿三日 印刷
昭和三〇年 八月廿五日 発行

本号頒價百二十円

大分県地方史研究会

編集兼代表者 渡 邊 澄 夫

印刷人 高 井 久 雄

印刷所 三惠印刷株式会社
大分市上野 電話一七七五

大分市歐原大分大学
学芸学部国史研究室内

発行所 大分縣地方史研究会

(振替口座下関五二四九番)